

第 23 回東海地区農学部附属演習林技術職員研修実施報告

三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域

フィールドサイエンスセンター技術部 演習林グループ

○浅原 理, 上尾 智洋, 山本 拓史, 新田 昌臣

asahara@bio.mie-u.ac.jp

1. はじめに

農学部附属演習林技術職員研修は、北海道・東北地区、関東甲信越地区、東海地区、中国・四国・近畿地区、九州地区ごとに毎年行われている。対象者は各演習林技術職員であり、所属している地区に関係なく、どの研修にも参加できる。今回、三重大学が東海地区の担当となり、「第 23 回東海地区農学部附属演習林技術職員研修」を平成 27 年 10 月 20 日（火）～23 日（金）に実施した。受講者は東京大学から 1 名、京都大学から 3 名、三重大学から 1 名であった。

2. 研修の内容

研修は「各大学演習林技術職員相互間の技術交流を図るとともに、多様化が進む社会情勢に対応するため、森林管理者として必要な専門知識と技術を習得することにより、技術職員の資質と能力の向上を図ること」を目的とし、日程表に沿って、1 日目は開講式、三重大学平倉演習林において林内見学が行われた。2 日目と 3 日目は、三重県大台町の宮川上流域に位置する大杉谷において登山歩道研修を行い、最終日は、三重県伊勢市外宮において式年遷宮記念せんぐう館（外宮）見学と閉講式を行った。

最初に三重大学にて開講式を行った後、南西に約 60 km 離れた演習林に移動し、施設の説明と見学を行った（図 1, 図 2）。演習林は、三重県のほぼ中央を流れる雲出川の最上流水源地帯を構成し、東西約 4 km、南北約 1.5 km で面積は約 460ha となっている。このうち、約 6 割を占める天然生林は紀伊半島北部の代表的自然植生を示し、学術上貴重である。また、林齢 200 年の藤堂スギと呼ばれる人工林を有している。



図 1. 演習林管理棟・宿泊棟



図 2. 見学風景（演習林内・西俣谷本流）

2 日目と 3 日目は登山歩道研修を実施した。大杉峡谷は、富山の黒部峡谷、新潟の清津峡谷とともに日本三大峡谷のひとつに数えられる。大杉谷登山歩道は、全長約 14,1 km・高低差 1,415m の登山道である。この雄大な峡谷を眺めながら 7 つの滝を間近に 11 本の吊り橋を越えて行き、原生林の森を抜け大台ヶ原に至る中級登山道である（図 3）。



図 3.大杉峡谷登山マップ, (社) 大杉谷登山センター

大杉谷のある宮川流域は、2004 年、2011 年と台風に伴う豪雨被害を受けた。歩道の補修は野面積みという方法で行っている。野面積みには、練積み (ねりづみ) (図 4) と空積み (からづみ) (図 5) があり、練積みはコンクリートを使って積む方法で、空積みは石だけを組んで行う方法である。



図 4.練積み

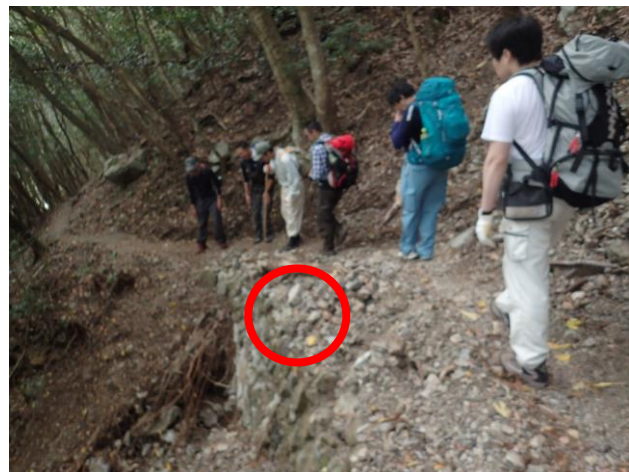


図 5.空積み

大日嶺、京良谷、千尋滝、シシ淵、平等峠を過ぎて、吊り橋を渡った先に大杉谷歩道の峡谷区間で唯一の宿である桃の木山の家がある (図 6)。この山小屋は、溪流を見下ろす佳景の立地にあり、ヒノキ風呂のほか、夏は溪流で水浴びも楽しめる。秘境にありながら実は定員 330 名と関西最大級の山小屋である。大部屋泊のほか、個室 (別途費用) の利用も可能である (図 7)。標高約 480m にあり、営業期間は 4 月中旬～11 月下旬である。



図6.桃の木山の家



図7.大部屋

登山歩道研修2日目は、山小屋から七ツ釜滝・光滝・堂倉滝・シャクナゲ坂・シャクナゲ平を通過、日出ヶ岳に至る行程である。2014年4月には通行止めになっていた七ツ釜滝～堂倉滝間が本開通し、10年ぶりに秘境解禁となった。台風の影響で大きく地形が変わった七ツ釜滝～光滝間には巨大な砦のような荒々しい岩場が新たに出現し、新名所として注目を集めている（図8，図9）。この場所は登山ルートを設定する上で、崩壊地を通るか・吊り橋を新設するか・崩壊地の対岸に歩道を造るか、様々な方法が検討されたが、10年近く継続されている定点調査の結果、概ね変状は見られないとの判断に至り、崩落地を通過するルートが設定された。



図8.大杉谷登山の様子



図9.砦のような岩場

日出ヶ岳山頂には、一等三角点があり、三重県と奈良県の県境でもある。天気がよければ三重大学演習林の山々が眺望できる（図10）。

大台ヶ原は日出ヶ岳（標高1,695m）を最高峰とし、標高1,400m～1,600mのゆるやかな起伏が続く台地で、年平均降水量が約4,000mmを超える日本有数の多雨地帯として知られている。多雨の降雨によって削られた絶壁や流れ落ちる滝など雄大な景観が見られる。山頂付近までドライブウェイが通じ、山頂付近の自然散策、ハイキングの他、本格的な登山が楽しめる（図11）。

大台ヶ原の地質・地形は、古生層、中生層の堆積岩からなり、標高1,500m前後に広大な平坦面をもつわが国ではまれな隆起準平原である。地区内を流れる東ノ川が深いV字溪谷をつくり、滝や岩壁が連なっている。トウヒ、ウラジロモミなどの針葉樹と、ブナ、ミズナラなどの広葉樹で構成される貴重な自然が残る大台ヶ原は、吉野熊野国立公園内の特別保護地区に指定されている。大台ヶ原開山後の歴史は100年余りと比較的新しいが、その時間の中で大きく様変わりしてきた。特に様々な要因による森林衰退が著しく、この森を守るためにたゆまない取り組みが続いている。



図 1 0.日出ヶ岳山頂の一等三角点



図 1 1.大台ヶ原付近

最終日は伊勢神宮外宮とせんぐう館の見学であった。せんぐう館の展示資料は、御装束神宝の製作や御正殿の造営に関する模型や映像など多岐多様であり、それらはすべて、神宮式年遷宮が伝えてきた「精神」と「情報」という「形なきもの」を、目に触れ、肌で感じることができるよう表現した画期的なものであった（図 1 2）。最後に閉講式を行った（図 1 3）。



図 1 2.せんぐう館



図 1 3.閉講式

3. まとめ

日本三大峡谷の大杉谷は魅力的であるが、十分な準備と注意を怠ると事故や遭難の可能性のある危険度の中級登山道である。登山口～堂倉滝間の登山道はアップダウンが多い。それは、増水による吊り橋の流失防止や冠水による通行困難を避けるため、高い所に設置されているためである。登山歩道には断崖絶壁も多く、緊張の連続である。その維持管理は、県からの委託で公益社団法人大杉谷登山センターが行っているが、多くのボランティアも協力している。管理の方法としては、野面積みの手法を用いている。加えて、落下防止のため登山歩道の整備および鎖等の補修と設置も行っている。

大杉谷の周辺には希少なトガサワラとコウヤマキの自生を見ることができる。

大杉谷は昔、伊勢神宮の御杣山で、20年に一度の式年遷宮に使うヒノキ大径木を伐り出していた。溪谷を使いヒノキ材を搬出していたが、滝が多いため破損しやすく、使用に供することのできた材は少なく歩留まりが悪かったとのことであった。

参考資料:①大杉谷登山センター(2014) 吉野熊野国立公園 大杉峡谷 <http://www.oosugidani.jp/map.html> (参照:2015/12/1),②伊勢神宮が運営する「せんぐう館」

http://www.sengukan.jp/wp-content/themes/sengukan/pdf/sengukan_panf_2015.pdf (参照:2015/12/1)